

### 学校運営協議会で地域と学校がひとつに

#### 子ども・地域の目指す姿を共有

令和2年度からモデル校としてコミュニティ・スクールを導入し、小・中学校一校の学校運営協議会を設置しています。協議会では目指すべき「子どもの姿」「地域の姿」を保護者や地域、学校が共有し、目標を達成するためにどんな活動ができるかを話し合っています。

#### 子どもの意見を大切に

また、地域と学校が協力して行う活動などについて協議会のメンバーと小・中学生が意見交換をする「子ども・地域を語る会」を開催しています。大人が思い付かないアイデアを出してくれるので、子どもたちの意見はとても貴重です。話し合いをするたび、子どもたちは地域のこ

とをよく見ていると感じます。大人も子どもも同じコミュニティの一員として、これからも良い信頼関係を築いていきたいです。

#### 子どもは地域の宝

地域と学校が一体となり、子どもが地域活動に参加する機会が増えることで、担い手が不足している活動の活性化にもつながると考えています。

子どもは「地域の宝」です。その宝を、地域も保護者や学校と同じ思いで育てていきたいと思えます。

地域のことを子どもと話し合う



葛塚東小学校・葛塚中学校 学校運営協議会 会長 五十嵐 隆吉 さん

地域の声

#### 児童・生徒の声

子どもと大人が壁を感じずに話し合えたことが印象に残っています。さまざまな目標の意見が聞けて良い経験になりました。楽しかったです。



葛塚中学校2年生 滝澤 諒 さん

ランタンを打ち上げた時に、みんなの気持ちがあつたことが印象的でした。みんなを笑顔にできるような活動に、また参加したいです。



葛塚東小学校6年生 山熊 希花 さん

地域の人や小学生と積極的に意見を交わして、プロジェクトを成功させることができました。これからたくさん意見を交換していきたいです。



葛塚中学校2年生 小柳 風月 さん

活動後は、地域の人たちとおしゃべりをする機会が増えました。いろいろな人と話せることが好きなので、これからも地域の活動に参加したいです。



葛塚東小学校6年生 佐藤 太郎 さん

#### 保護者の声



葛塚中学校 PTA会長 長谷川 雅明 さん

#### 子どもたちの笑顔が一番

コロナ禍で子どもたちの行事の中止や延期が相次ぐ中、思い出に残るイベントができて本当に良かったです。PTAは当日、ランタンにヘリウムガスを注入するなどの協力をしました。打ち上げの瞬間に子どもたちの笑顔を見られたことが、何よりもうれしかったです。

#### 地域に合った学校づくりを

学校運営協議会の良さは、学校運営に保護者や地域の人が参加できるところだと思っています。

す。これまでが学校が決めた運営方針を伝えられるだけでしたが、今は運営方針を検討する段階でそれぞれの立場から意見を交わし、地域に合った学校づくりができるようになりました。今後、地域の皆さんが気軽に学校に来ることができるようになれば、地域で子どもを育てる機運がさらに高まると思います。コミュニティ・スクールで地域と学校の連携が深まり、子どもたちが「ここで育って良かった」と思えるような地域づくりにつながることを期待しています。

### コミュニティ・スクールの仕組み

#### Q コミュニティ・スクールとは？

A 保護者や地域の代表、教職員などで組織する「学校運営協議会」が設置された学校のことです。地域と学校が一体となって子どもたちの成長を支えます。

#### Q 期待されることは？

A 地域と学校が協働で行う活動の目的を改めて明確化することで、活動がさらに改善、進展します。・社会の課題や地域のニーズに合わせた教育が行われます。・地域の新たな教育資源の発掘や子どもたちの地域への愛着、地域の担い手としての意識づくりにつながります。

#### Q 期待されることは？

A 「地域の子どもたちにどう育てほしいか」を話し合う場です。教育の目的などを共有し、子どもたちに必要な支援や教育活動の質の向上などについて、地域と学校が当事者意識を持って一緒に考えます。

#### 学校運営協議会



#### 保護者・地域



#### 学校



#### 地域と学校の協働活動



地域の思いを学校運営に生かしていくために!

具体的な活動内容は、地域や学校、生徒がそれぞれの立場からアイデアを出し合って決めました。地域の呼び掛けを、学校は小・中学校の連携を、生徒は打ち合わせの司会や取りまとめを担いました。

そこで、「伝統を後世につなぐために、子どもと一緒に活動をしたい」という地域の声の提案をきっかけに、代替イベントとして昨年10月に校舎の屋上からランタンを打ち上げるランタンプロジェクトを行いました。

北区の福島端では、昨年9月に約1万本のランタンを打ち上げたイベント「雁渡り」が行われ、当校の生徒たちも参加していました。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、この3年間は開催されませんでした。

当日は生徒や児童、保護者、地域住民、関係者が参加し、400個のランタンを作って打ち上げました。



葛塚中学校 上村 慎吾 教諭

同プロジェクトの動画を動画配信サイト「YouTube」で公開しています。



生徒たちは、プロジェクトの主体として大人と対等な立場で話し合いに参加し、準備や運営に携わったことで、他者と関わり合う力を高めることができました。これからは、大人と協力して地域の課題を解決するといふ学校だけではなく、生徒たちの学びや地域への愛着が深まっていくと考えています。

豊栄ロータリークラブにも協力していただき、イベントの様子をドローンで撮影し、動画を配信しました。

#### 活動の様子

#### 10月15日18時ごろ



打ち上げ 夜空に浮かぶスカイランタンに参加者は感動の声を上げていました。

#### 10月15日15時ごろ



ランタン製作 ランタンには、未来の地域への願いなどを書いた短冊を貼りました。

#### 9月中旬



打ち合わせ 地域の人たちとプロジェクトの目的を共有し、どのように活動を進めるか計画を立てました。

#### プロジェクト名決定

「明るさ・笑顔・伝統をつなぐ」という思いを込めて「トライアングルプロジェクト」と名付けました。